

バスのある ライフスタイル

小山市の取り組みが「グッドデザイン賞」受賞！



栃木県小山市の人口:167,888人
(2021年1月1日現在)



小山市役所新庁舎(2021年5月開庁予定)

市民と地域をつなぐ
コミュニティバス
「おーバス」が活躍。

栃木県小山市が運営するコミュニティバス「おーバス」。小山駅や間々田駅を中心とした市街地に路線バスを14路線、郊外には予約型区域内運行のデマンドバスを5つのエリアで運行しています。同市では、2018年度から地方創生推進交付金を活用し「おーバス」利用促進プロジェクトを開始。その取り組みが、暮らしや社会をより良くする製品・サービスなどに贈られる「グッドデザイン賞」を受賞しました(2020年度)。また、公共交通が抱える諸問題緩和に向けた優れた取り組みに贈られる「JCOMMプロジェクト賞」の受賞にもつながりました。

老若男女が気軽に乗れるバスを目指して。
利用促進プロジェクトが発足。

2002年、1路線から運行を開始した「おーバス」は、年々路線エリアを拡大しながら小山市民の移動を支えてきました。しかし、市の限られた運行経費の中では大幅な増便や新路線開業は容易ではなく、便利なバスとはいえない状況にありました。

そうした状況を打開するために発足したのが「おーバス」利用促進プロジェクト。目指したのは「バスってグサイ」「お年寄りが乗るもの」というイメージを刷新し、多くの市民に気軽に利用してもらうこと。そして、利便性を向上させ「バスがある生活っていいね」と感じてもらうことでした。

そのために「移動手段」「街」「人」のより良い関係を考える「モビリティ・マネジメント」の考え方に基づき、「おーバス」と市民の関係を再検討。情報誌の発行や格安定期券の導入など、それまでバスへの関心が低かった人にも受け入れられる施策を実践することで、利用者の増加につながりました。そして、公共交通をリデザインし、「バスのある豊かな暮らし」の実現を目指した取り組みが高く評価され、「グッドデザイン賞」ならびに「JCOMMプロジェクト賞」を受賞しました。受賞について、プロジェクトメンバーである小山市役所の浅見知秀さんは「大変光栄なことですが、ここからがスタート。取り組みを継続し、皆さまに愛される『おーバス』を目指して日々研鑽を積んでいきます」と話します。



小山市民の暮らしを支える「おーバス」。



公共交通のリデザインでバスの利用者増加を実現した、「おーバス」利用促進プロジェクトのメンバーの皆さん。

多角的な施策で利用者へアプローチ。
小山市の「グッドデザイン賞」への道。



バスに乗りたくなる“仕組み”をデザイン！

1 コミュニケーションをデザイン ■生活情報誌「Bloom!-ブルーン!-」の発行

読者との双方向コミュニケーションを意識し、小山市の暮らしにバスが寄り添う記事を掲載。市内全世帯と企業・学校などへの配布を実施しました。「お年寄りが乗るもの」というイメージが変わりました」という声も若い世代から届いています。

配布数
18万部
達成



全3号発行された「Bloom!」。コンセプトは「小山に生きる、おーバスが活躍する。」

2 定期券の仕組みをデザイン ■全線共通定期券「おーバスnoroca」の導入

従来の定期券と比べ、年間最大7割引きという低価格に加え、市内全線乗り放題を実現。紙製の定期券を採用することで設備投資を抑え、サービス強化に努めました。利用者からは「気軽に乗れるので、お出かけの選択肢が増えました」と好評です。

定期券所有者
2.6倍
(2021年1月現在)



ちょっとした移動でも気兼ねなく利用できることで、バスがより身近な存在に。

3 バスの運用・運営をデザイン ■新規路線「渡良瀬ライン」などの運行

病院への通院や通勤・通学、渡良瀬遊水地へのアクセスなど、地域住民と観光客それぞれの利便性向上を図るため、広域を結ぶ「渡良瀬ライン」の運行を開始。また、小山駅と商業施設を結ぶシャトルバスを路線バス化した「ハーヴェストウォーク線」の運行もスタートしました。

年間利用者
66万人→
73万人
(2019年度)



「おーバス」は、栃木市との相互乗り入れによる広域公営バスとしても活躍中。

プロジェクトを通じて“「おーバス」ファン”が増加！

クレームの電話・メールが激減
1/10件/月
「Bloom!」発行前の
平均値と発行後8カ月間を比較

いいね!が次々と
2,000いいね!
Facebookの投稿に共感した数

多くの応援・励ましのメッセージ
405通
「Bloom!」に対していただいた反響

若者のバス利用者増加
4.1倍
2018年度と2020年12月時点の
定期券保有者数で比較

「おーバス」のことを好きな人が増加
10%UP
アンケートで「おーバス」のことが
好きと答えた方の割合

まちに愛着を持つ人が増加
5%UP
アンケートで小山に
愛着があると答えた方の割合